

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	多摩区第1グループ(枳形・長尾)	評価対象年度	平成24年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	子ども支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	多摩区子ども支援室

2. 事業実績

利用実績	<p>1 枳形子ども文化センター ①年間延べ利用者数 19,642人 ②年間延べ利用団体数 378団体</p> <p>2 東生田小学校わくわくプラザ ①登録者数 245人 ②年間延べ利用者数 10,913人</p> <p>1 長尾子ども文化センター ①年間延べ利用者数 24,271人 ②年間延べ利用団体数 424団体</p> <p>2 稲田小学校わくわくプラザ ①登録者数 384人 ②年間延べ利用者数 23,869人</p> <p>3 長尾小学校わくわくプラザ ①登録者数 103人 ②年間延べ利用者数 4,782人</p>
収支実績	<p style="text-align: right;">単位:円</p> <p>1 収入 指定管理料 93,980,718</p> <p>2 支出 人件費 75,056,885 事業費 4,988,300 事務経費 9,011,746 その他経費 150,942 合計 89,207,873</p> <p>3 差引 4,772,845</p>
サービス向上の取組	地域ボランティアを積極的に受け入れボランティア総数は前年度を40%以上上回っている。運営協議会・利用団体・地域ボランティアとの協働事業で、地域との連携の輪を広げている。

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進 及び 事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	4	8
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由) グループ合同行事で「ホテルの国de夜のおさんぽ」「枳形・長尾一黒川グルメバトルアドベンチャー！」を開催した。地域ボランティアを積極的に受入れている。長尾子ども文化センターでは、「中学生と地域の卓球名人が真剣勝負」を企画し、地域の人々と中学生の交流を図り、卓球利用など、昨年度比13%増の中学生の利用があった。また、「1・2・3才の子集まれ」という乳幼児向けの企画により、乳幼児の来館者が昨年度より130名増加した。枳形子ども文化センターでは、1つの行事の準備段階から子どもたちが参加し、多くの参加者があり充実した行事実施ができた。どの行事も昨年度を30%以上上回る来館者があった。また、わくわくプラザの振替休日等に「ランチタイム」を行って就労保護者に配慮した。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続 効率的・効果的な支出	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
		計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
(評価の理由) 金銭管理・会計手続についても適切に行われ、概ね提案どおりの経費執行であった。電力消費量の経費削減にも取組み、対前年度比最大28%となっている。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	3	3
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	3	3
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
	利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	3	6
<p>(評価の理由) 地域ボランティアの積極的な受け入れや団体との協働行事を通し地域との連携が大きく展開している。年間を通して地域ボランティアが活躍できる場が多く、ボランティアの総数は前年度を40%上回った。長尾こども文化センターでは、行事の中の和太鼓ステージショーに地域で活躍している団体や老人いこいの家で練習している関係者が出演したことで、たいへん多数の行事参加者があり、地域連携の一助となった。更に、小学校・施設開放委員会との共同の草むしりに参加したり、隣接する公園のゴミ拾いをしたりと地域の中の施設として信頼を得ている。また、中学生は地道な広報活動の成果として、前年度と比較して800名以上利用者が増加した。近隣自治会の掲示板や回覧等の協力も得ている。利用者ニーズの把握のため行事終了後はその都度、参加者対象にアンケートを実施している。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	児童福祉施設最低基準第38条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	3	6
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) こども文化センター及びわくわくプラザ共に、提案どおり適正な配置がなされていた。研修は財団主催研修並びに各館ごとの実施研修ともに、計画的に実地に活かせる研修を行っている。稲田小わくわくプラザでは、特別に支援を要する児童への理解を深めるため、学校の教諭・巡回相談員とともに研修を行い、適切なかかわり等につながった。個人情報保護に関しても、規定・体制等が整備され、トラブルはなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
	利用者の安全確保	利用者の安全を確保する体制(マニュアル等)を整備しているか	5	3	3
		事故等が発生した場合に適切な対応をしているか			
		感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか			
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	4	4
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 消防設備(誘導灯、感知器)に破損防止器具を設置した。ピリヤード台や引き戸レールに保護カバーを設置して乳幼児の利用に配慮している。わくわくプラザでは、児童用ピプスを購入して安全確保に努めた。また、配水管の高圧洗浄等により衛生面の向上を図った。職員・臨職へのインフルエンザ予防接種費用補助を行い感染症予防対策に努めている。更に災害時に備え、わくわくプラザに防災遮光カーテンを設置し、非常用発電機や簡易トイレセットを購入した。また、災害時の対応については各施設が管轄する小学校と協議しており、地域子育て支援センターのあるこども文化センターは、運営団体と共に避難訓練を実施している。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	65	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

財団のスケールメリットを活かした人員配置、経費削減、また、公益法人としての収支相償の会計原則の厳守による剰余金での環境整備など、運営面においては安定的な執行がなされている。

また、各館が培ってきた地域住民や関係機関との連携も非常に良好で、今後も地域一体となった運営が期待できる。

更に利用者の安全や災害時の対応に配慮した備えを常に準備しており、適正な業務を遂行している。

第1グループとしては、地域ボランティアの活躍の場が多くあり、こども文化センターも公園のゴミ拾いや草むしりなど、地域の中の施設として信頼を得るよう努めており、良い連携が図られている。中学生の利用拡大を大幅に実現するなど、事業や広報にも工夫が見られる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

収容人員が多いわくわくプラザなど、環境が厳しい施設もあるため、引き続き安全等に十分配慮した運営を心がけていただきたい。

また、利用者のニーズ等に応じて、サービス向上に努めていっていただきたい。